

土器敷きの機能について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平林, 拓也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/2858

えにくい。

以上のような結果から土器敷きは実用的な機能を備えていたと推測した。

土器敷きの機能について

平林 拓也

炉は人間と火との関わりを示す痕跡のひとつである。縄文時代には炉に多様な形態がみられるようになる。同一遺跡内においてさえ異形態の炉が存在するのである。その炉形態の多様さは縄文人の嗜好による違いであるとは考えられず、何らかの機能差があったと考えられる。本論ではその機能について考察していくことを目的とし、多様な炉の中で土器が敷かれている炉を取り上げた。

土器敷きの機能としては3つが想定されている。ひとつは炉の処理行為の跡とするもの、ひとつは地面からの湿気を防ぐ、熱効率をあげるといった実用的機能、もうひとつは儀礼行為といった非実用的機能である。この3つが土器敷きの機能として備えていたか分析結果を基にして考察を行った。

分析の対象とするのは北陸（石川・富山）の炉である。土器敷きは47例確認することができた。そして土器敷きの行われていない556炉と比較を行って土器敷きの機能について考察を行った。

分析の基準としては、時期・利用場所・大きさ・形態・炉石の抜き去り・炉内の石敷きの6項目を用いた。土器敷き炉は中期前葉から後期後葉にみられた。利用場所などその他の要素については土器敷き炉と他炉との間に大きな違いがみられなかった。

この結果から土器敷き炉が普通の炉とかわらない炉であり儀礼性を伴った特殊な炉であるとは考えにくい。また、土器敷き炉の発掘状況や炉石の抜き去りとの相関関係がみられないことから炉の処理行為の跡であるとも考